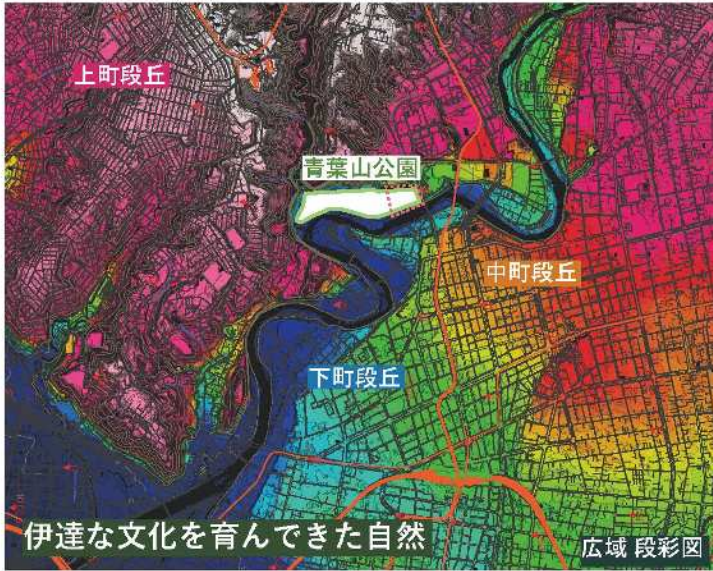
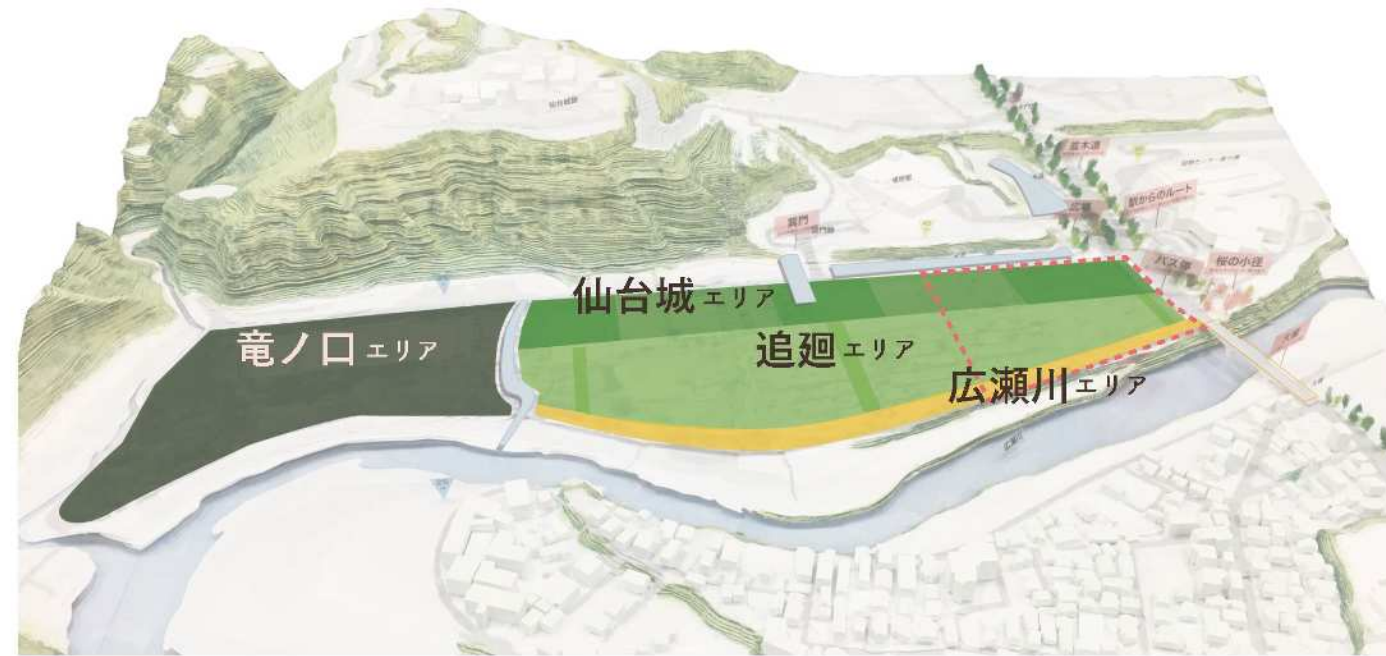


青葉山公園全体コンセプト [補足]

・プレイスメイキングを重ねることで見えてきた青葉山公園のあるべき空間像をご提案します。



せんだい = 仙台～千代



「公園センターの基本コンセプト」 青葉山公園整備基本計画より
 「青葉山公園、仙台城方面への玄関口にふさわしい、来訪者に向けた「杜の都・仙台」の歴史文化の発信」

仙台城 エリア



「仙台城フロントガーデン」
 仙台城の麓を固める多機能なゾーン。和を意識した空間で構成し、仙台城へのアクセスの拠点となる。公園センター、庭園、広場、乗降場、駐車場など

追廻 エリア



「広瀬川パークライフフィールド」
 仙台随一の芝生のオープンスペースや木陰のあるテラス空間が人々の様々な活動を受けとめる。緑陰や休憩スペースを周縁部に配置する。

広瀬川 エリア



「せんだいシンボルテラス」
 550m 続く仙台のリバーフロント空間であり仙台式さを象徴する青葉山公園の「顔」となる空間。対岸には仙台の街を一望できるシティビュー。花木による緑の回廊。

竜ノ口 エリア



「青葉の森」
 竜ノ口渓谷へ繋がる空間として、森と水、生き物の聖域として散策、自然学習、体験学習などを楽しめるエリア。

展示計画の基本コンセプト (案)

青葉山の自然

伊達な文化

森 と 杜
 もり もり
 の共鳴

森と杜の共鳴 青葉山の自然と「伊達な」歴史文化に会う体感型情報ラウンジ

青葉山公園の歴史文化を支える青葉山の豊かな自然。「杜の都」仙台の魅力は400年以上にわたって「まち」に育まれる「伊達な」歴史文化と、身近に存在する野趣あふれる自然の共存にあります。自然を意味する「森」と都市の中の自然を意味する「杜」は、そのまま青葉山公園の場所にまつわる様々な物語の重なりとなって、仙台の人々、仙台を訪れる人々の中で響き合い、次世代に都市生活の喜びと自然の大切さを伝えます。

「森と杜の共鳴」というコンセプトは、公園センターの情報ラウンジやライブラリーを中心とした館内だけでなく、公園全域に様々なレベルで現れます。来訪者一人ひとりがそれぞれの目線でのこのコンセプトに出会い、思いをめぐらせ、そしてそれぞれの次の場所へと回遊して行きます。こうして青葉山公園は「利用する公園」から「参加する公園」へと変わります。



展示の目標

公園に関すること、この場所の歴史に関すること、仙台城に関すること、青葉山の自然に関すること、仙台の街に関すること、＜伊達な文化＞に関することなどについて、来訪者各々のコンディションに合わせた多層的な情報と出会う空間の提供。

全体デザイン計画

ランドスケープ(公園センター及びその周辺)について、コンセプトと基本設計における「デザインの方向性」の重要なポイントをご説明いたします。

プランは検討中のため変更の可能性があります。

竜ノロエリア "青葉の森"

仙台城エリア "仙台城フロントガーデン"

1 集まり広場

公園センターへのメインアプローチとなる。伊達政宗銅像などの歴史の継承により、観光客や市民を迎える広場。

2 もりの参道

市道青葉山線に沿ってアクセスを受け止めるアプローチ。軸線を通し、歴史文化的な佇まいをつくる。イベント時は舞台など賑わいのある使い方も可能。

3 屋敷林(オモテ林1)

仙台城下の屋敷林(オモテ林)をイメージした公園センターを訪れた人々を迎える庭園。武家屋敷の佇まいをイメージさせる樹種構成にする。

4 もりの庭園(オモテ林2)

広がりある州浜から次第に密度の高い森へと変化し、季節ごとの変化を静かに楽しめる回遊性のある庭となる。紅葉林を象徴する植生。

5 もりの回廊

公園センターと蟹門広場をつなぐ新たな登城路。中央広場での活動を支える。緊急車両、搬入路となる他、葉書などのイベントにも対応。



大橋からの眺め

追廻エリア "広瀬川パークライフフィールド"

6 もりの市民広場

大橋からの風景を作る50m x 35mの芝生広場は段々デッキに囲われた屋外市民活動の拠点となる。

7 もりのテラス

公園センターの建物と広瀬川をつなぐ多目的なテラス。市民広場や中央広場の活動を支える大階段やベンチなどの座席所がある。

8 中央広場

周囲に微地形を持った広大な広場で子どもから大人まで自由な発想で利用できる180m x 80mの芝生広場。

広瀬川エリア "せんだいシンボルテラス"

9 広瀬川テラス

大橋からの景観構成において前線をなす重要な空間。広瀬川の石垣が際立つデザインとする。

10 さくらテラス

もりのテラスから広瀬川近辺場所から花見イベントなどの核となる。川沿いの散策の休憩スペースになる。

11 桜の小径

広瀬川沿いの散策を誘う遊歩道を、既存の果樹などを保存・保護し、桜以外の樹種も検討する。

広場名	面積 (㎡)	主な特徴
1 集まり広場	約1,508	観音バス停留所・市民会館の待ち合わせなど
2 公園センター	約2,456	観音銅像・カフェ・観音・市民活動拠点を集約
3 もりの参道	約1,400	市道青葉山線から公園センターへ向かう主要な参道
4 屋敷林(オモテ林1)	約850	歴史文化を継承する公園センター一帯となる庭園
5 もりの回廊	約6,428	公園センターと蟹門広場をつなぐ新たな登城路
6 もりの市民広場	約902	公園センターと中央広場の連携が図れる広場
7 もりのテラス	約2,188	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
8 中央広場	約1,190	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
9 広瀬川テラス	約6,709	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
10 桜の小径	約5,816	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
11 さくらテラス	約94	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
12 桜の小径	約1,372	公園センターと広瀬川をつなぐ多目的なテラス
合計	約25,944	

次期計画範囲
(計画範囲外はイメージです。)

